

Refining Diagnosis and Treatment of Equine Placentitis

Through a Multi-Omics Approach

マルチオミクス解析による 馬胎盤炎の診断・治療戦略の最適化

馬の胎盤炎は流産や早産の主要な原因の一つで、馬の生産に大きな損失をもたらしている。

本講演では、馬胎盤炎の最新知見と診断・治療上の課題を概説するとともに、

マルチオミクス解析を活用した新たな診断・治療戦略について紹介する。

分子レベルの病態に基づく獣医療の最適化と、妊娠喪失低減に向けた展望について議論する。



Hossam El-Sheikh Ali先生

ケンタッキー大学獣医学部
マックスウェル・H・グルック馬研究センター 准教授

宮崎大学およびエジプト・マンスーラ大学で博士号を取得し、
米国の獣医繁殖学専門医（ACT Diplomate）としても活躍している。
馬の胎盤機能と妊娠維持機構、上行性胎盤炎、早産などの研究を展開し、
トランスクリプトーム解析やマルチオミクス解析を用いて妊娠維持機構の
解明に取り組んでいる。

日時；令和8年6月29日（月）13:00～（15:00予定）

場所；農学部講義棟 L103

参加無料

*馬の話題となりますが、研究手法等にご興味がある方々も、是非、お越しください



国立大学法人 宮崎大学

産業動物防疫リサーチセンター

Center for Animal Disease Control (CADIC)

世話人：農学部 獣医学科 北原 豪 (gkitahara@cc.miyazaki-u.ac.jp)